



かかみがはら

市議会だより

発行
各務原市議会

岐阜県各務原市那加桜町1-69
電話058-383-2001

編集
市議会だより編集委員会



小型ポンプ操法を初披露する女性消防団員（6月9日・川島スポーツ公園）

6月定例会

主な議案	2
審議結果	3
委員会審査	4
委員会調査報告	5

市政を問う 一般質問

市長の今後の市政運営	6
風疹ワクチン予防接種助成	7
夏期巡回ラジオ体操	8
街路樹などの管理方法	9
市民の声、議会素描	10

浅野市長が本会議初日に所信表明 対話を大切に、3つの柱

「市民が幸福を実感できる」まちづくりを理想に掲げる

平成25年第2回定例会（6月定例会）を6月3日から6月26日までの24日間の会期で開催しました。

市長から提出された議案は、平成25年度一般会計補正予算をはじめとする13案件で、委員会、本会議を経て、いずれも原案のとおり承認・可決・同意しました。

本会議初日に市長提出議案の提案説明があり、その冒頭、浅野市長より、市政運営についての所信表明がありました。

市長の所信表明

「市民が幸福を実感できる」まちづくりを理想に掲げ、次の3つの柱により市政を推進していく。

①誇り

本市が誇る歴史・文化・自然を生かした教育環境づくりに取り組む。

また、地域を守る消防団など、ボランティア的な市民活動員の確保と行政・市民の協働による地域安全の向上に努める。

さらに、生涯スポーツによる全市民の健康づくりに併せ、競技スポーツの活性化など、スポーツを通じた元気な人づくりと施設の充実を図る。

②やさしさ

通学路の安全確保と公共施設の100%耐震化を実現する。

また、お年寄りや障がい者が元気に暮らせる福祉環境の構築と交通弱者対策に取り組む。

さらに、財政体力の維持向上を図り、健全な財政を堅持する。

③活気

市内企業の情報共有や意見交換の場を創設し、元気な企業を支援する仕

組みづくりに取り組む。

また、NPOや市民活動団体との連携を進めながら、市民や地域の担い手が主体的・積極的にまちづくりに取り組めるような支援策を強化する。

さらに、公共施設や道路などの公共インフラは、経済効果と投資効果を考慮し、便利で使いやすい施設にするためのリフレッシュ・リニューアル事業を推進する。

これら3つの柱の実現に向けて、若者、子育て世代、高齢者の3つの世代との「対話」を大切に、「市民の、市民による、市民のための市政」を目指していく。

平成25年度 一般会計補正予算

新たな総合計画の策定

事業、風疹予防接種の公費助成制度の創設に伴う予防接種事業をはじめ、松が丘コミュニティセンター改修事業、尾崎北町東公園整備事業、ナショナルトレーニングセンター事業など、当面の行政需要に対応するため、歳入歳出予算、債務負担行為、地方債の補正を行うものです。

歳入歳出予算の補正は、1億7169万7千円を追加し、補正後の予算総額を397億6169万7千円としています。

歳入の主なもの

○国庫支出金

3506万2千円

○県支出金

6974万8千円

○繰越金

1768万7千円

○市債

4370万円

歳出の主なもの

○総合計画策定事業費

現状の課題のほか、本

市を取り巻く社会経済情勢が大きく変化し続けているため、市民ニーズを的確に把握し、本市が目指す「市民が幸福を実感できるまち」に向けた指針を新たに定めるため、総合計画を見直すものです。

○公園整備事業費

尾崎北町東公園を全面リニューアルするものです。

2750万円
○学習等供用施設改修事業費

松が丘コミュニティセンターの屋上防水、太陽光パネルの設置、エアコンの取り替えなどを行うものです。4097万円



改修予定の松が丘コミュニティセンター

審議結果（6月定例会）

- 農業委員会委員の推薦（島田久雄氏、清水亮司氏、早川貞幸氏、
岩田英稔氏）…………… 推 薦
- 本曾川右岸地帯水防事務組合議会議員の選挙（五島伸治氏）…………… 当 選
- 岐阜県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙（浅野健司氏）…………… 当 選
- 固定資産評価員の選任（森茂氏）…………… 原案同意・全会一致
- 人権擁護委員候補者の推薦（浅野妙子氏）…………… 原案同意・全会一致
- 専決処分の承認（平成24年度一般会計補正予算（第8号））…………… 原案承認・全会一致
- 専決処分の承認（市税条例の一部を改正する条例）…………… 原案承認・全会一致
- 平成25年度一般会計補正予算（第1号）…………… 原案可決・賛成多数
- 市税条例の一部を改正する条例…………… 原案可決・賛成多数
- 企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化
に関する法律第10条第1項の規定に基づく準則を定める条例…………… 原案可決・賛成多数
- 学校給食センター条例の一部を改正する条例…………… 原案可決・全会一致
- 調停の申立て等…………… 原案可決・賛成多数
- 市道路線の認定（市道鵜1375号線ほか1路線）…………… 原案可決・全会一致
- 市道路線の廃止及び認定（市道稲288号線ほか23路線）…………… 原案可決・全会一致
- 岐阜基地航空祭におけるブルーインパルスの展示飛行中止に関する
請願…………… 不採択・賛成少数
- 国民健康保険料の引き下げを求める請願…………… 不採択・賛成少数
- 工事請負契約の締結（消防救急デジタル無線整備工事）…………… 原案同意・全会一致
- 教育委員会委員の任命（勝野啓一氏）…………… 原案同意・全会一致
- 患者数が特に少ない希少疾病用医薬品（ウルトラ・オーファンド
ラッグ）の開発促進・支援のための法整備等を求める意見書…………… 原案可決・全会一致
- T P P交渉参加に反対する意見書…………… 原案否決・賛成少数
- 総合計画特別委員会の設置…………… 原案可決・全会一致

○予防接種事業費
先天性風疹症候群の発
生を防ぐため、風疹予防
の啓発と市内の医療機関
で行う個別接種の助成を
するものです。
417万1千円

工事請負契約の締結
消防救急デジタル無線
整備工事を一般競争入札
により、2億3100万
円で、中央電子光学（株）と
締結するものです。

総合計画特別委員会の設置
総合計画の策定に当た
って、基本構想、基本計
画とそれに関連する諸問
題について調査・研究す
るため、本市議会に定数
を8人とする総合計画特
別委員会を設置するもの
です。

委員長 古田 澄信
副委員長 横山 富士雄
委員 坂澤 博光
委員 永治 明子
委員 川嶋 一生
委員 池戸 一成
委員 杉山 元則
委員 足立 孝夫

委員会審査

経済教育
常任委員会学校給食センター条例の
一部改正

▼質疑 新しく所長の役職を置く理由は。

▽答 責任者を置くことにより現場で問題が起ったときに、迅速な初動体制を確保するためである。



学校給食センター（各務おがせ町）

今期定例会で4つの常任委員会に審査の付託をした各案件について、6月20日、21日の2日間で審査を行いました。
主な質疑の内容は次のとおりです。

民生消防
常任委員会平成25年度一般会計補正
予算（所管分）

▼質疑 7月1日から風疹予防接種費用の助成を実施する対象は。

▽答 妊娠を希望される方とその夫などである。

▼質疑 予防接種の助成見込み人数は。

▽答 風疹予防接種の対象者は、市全体で1740人くらいと想定しており、そのうち3割程度の方が利用されると見込んでいる。

▼質疑 受診者への助成の方法は。

▽答 市から医療機関に助成額の8千円を支払い、残りの額を受診者が医療機関の窓口を支払うことになる。

総務常任委員会

平成25年度一般会計補正
予算（所管分）

▼質疑 総合計画を見直す理由は。

▽答 前期基本計画が平成26年度で終了するため、後期基本計画を策定する時期であること。

その際、基本構想と基本計画にずれが生じないよう、基本構想についても見直していこうとするものである。

▼質疑 総合計画の策定に当たり、どのような団体から意見を聴くのか。

▽答 スポーツ団体やボランティア団体、経済団体など、いろいろな団体から意見を伺うもので、50団体くらいを予定している。

建設水道
常任委員会平成25年度一般会計補正
予算（所管分）

▼質疑 尾崎北町東公園の整備に関して、市民からどのような要望があったか。

▽答 平成24年11月に、地元自治会とワークショップを行った。

地元自治会からは、サイクルステーションや平均台などの健康遊具の設置、ベンチの増設のほか樹木の剪定などの要望があった。



リニューアルされる尾崎北町東公園

市議会の豆知識

市議会の傍聴とは？

本会議や委員会がどのように行われているのか、見たり、聴いたりすることが出来ます。

これを傍聴といい、簡単な手続きでどなたでも自由に傍聴することが出来ます。

受付は、会議が始まる30分前から行います。

なお、本会議の傍聴は市役所本庁舎6階の傍聴席入口で、委員会の傍聴は5階の議会事務局で、それぞれ受け付けします。どうぞ、お気軽にお越しください。

《注意事項》

傍聴席では、次の事項を守ってください。

① 議場での言論に対して、賛否を示したり、拍手をしたりしない。

② 騒ぎ立てない。

③ 携帯電話などの電源は切る。

④ 飲食や喫煙をしない。

⑤ 撮影や録音をしない。

詳しくは議会事務局まで

委員会調査報告 (市内での視察)

総務常任委員会

〈期間〉4月24日

○蘇原コミュニティセンター

非常時に設置されている井戸と、ポンプで水をくみ上げるための非常用発電機や避難所に備蓄している災害対策用備蓄品を視察した。

市内には、災害時要援護者用一次避難所は18カ所指定されている。

食料などは、十分な量を備蓄することが理想ではあるが、ランニングコストを考え、それぞれの世帯で食料を備蓄することとを前提として必要最低限の量が備蓄されている。

また、指定されている18カ所のうち、福祉センター13カ所には生活用水を確保するための井戸が設置されている。

そのほか、緑陽中学校の防災備蓄倉庫を視察した。

民生消防常任委員会

〈期間〉4月23日

○東海中央病院

平成23年3月に新病院を開設した東海中央病院を視察した。

現在は、HCU（高度治療室）が12床あり、次はICU（集中治療室）を設けるための取り組みをしている。

東海中央病院が市民病院のような役割を果たせるように、医師や看護師も努力している。

産科開設の要望が多いが、産婦人科の医師や助産師を再度確保するという難しい課題が残る。



東海中央病院で説明を受ける委員

○消防本部（高機能消防指令センター）

平成25年度から高機能消防指令システムが導入された消防本部を視察した。

消防本部指令課の職員と隊員が連携し、現場到着時間の短縮に向けて訓練した結果、指令までの所要時間を大幅に短縮できている。

今後も、一層の訓練を積み、所要時間の短縮に期待したい。

経済教育常任委員会

〈期間〉4月26日

○川島ライフデザインセンター

昭和46年に竣工したこの施設は、2階にある川島中学校体育館の耐震工事にあわせ、平成24年度に耐震及びリニューアル工事を行った。

施設内は、既存の棚や床面などを生かして修復することにより、今まで地域の方々が慣れ親しんでいた面影を随所に残している。

小学校と中学校の間に

位置しており、集会室や学習室などが充実しているため、川島地域の生涯学習の重要な拠点となっている。

今後も市民の多様な学習ニーズを把握し、市民講座の充実を図るとともに施設の有効活用を期待したい。

そのほか、学校給食センターと各務原縄文五千年の里発掘調査区域、航空宇宙科学博物館、岐阜県グリーンスタジアム内のナショナルトレーニングセンターを視察した。

建設水道常任委員会

〈期間〉4月23日

○扶桑各務原線（新愛岐大橋）

愛岐大橋は老朽化し、県道江南関線や木曾川右岸堤防道路は慢性的な渋滞が起きている。

現在、これらを解消するため、県道芋島鵜沼線より南側で道路の建設が進んでいる。

事業主体である県は、新愛岐大橋の詳細設計のためのボーリング調査を

今後行う予定であるが、架橋工事の時期は未定であり、一日も早い着工が望まれる。

○北清掃センター

余熱を利用した蒸気発電で、必要電力の85%を賄っている。

また、緑ごみの堆肥化施設やペットボトルのリサイクル施設（民間委託）、リサイクルセンターのリニューアルとともに太陽光パネル発電設備が設置され、必要電力の一部を賄っている。

そのほか、大伊木雨水幹線建設現場、三井山配水池を視察した。



北清掃センターの太陽光パネル

市政を問う 一般質問

6月17日から19日の3日間、一般質問を行いました。
質問をした議員は次のとおりです。(発言順)

古田澄信、横山富士雄、水野盛俊、大竹大輔、岩田紀正、黒田昌弘、五十川玲子、三和由紀、津田忠孝、足立孝夫、瀬川利生、波多野こうめ、永治明子、吉岡健、仙石浅善、坂澤博光、杉山元則

市長の今後の市政運営は

3つの柱により市政を推進

▼問 市長の市政運営の考えと意気込みは。

▼答 若者や子育て世代、高齢者などさまざまな世代の方々との対話を通じて、「市民が幸福を実感できる」まちづくりを目指し、「誇り」「やさしさ」「活気」の3本の柱で、ハードとソフト両面から市政運営に取り組んでいく。

幅広い世代との対話や市職員との定期的なミーティングにより、本市の課題解決につながるアイデアをいただき、市政運営に結びつけていく。

中学校3年生の時に抱いた「この市をもっと楽しくて、笑顔があふれる



定住を促進する巻き物

街にしたい」という志の実現に向け、自分のすべをささげる覚悟である。

▼問 総合計画見直しの視点は。

▼答 現状課題のほか、市民ニーズを的確に把握し、将来都市像の実現に向けたロードマップを新

たに作成するものである。

市民との対話の機会を積極的に設け、市民代表である市議会とも連携を密に改定作業を進める。

▼問 本市の魅力や住み易さをどうやってPRするのか。

▼答 映画やドラマなどを誘致する「各務原フィルムコミッション事業」や、人口増加につながる子育て世帯の転入を促すための「わくわく定住奨励金交付事業」、「こども医療費助成事業」など36事業を積極的に実施している。

▼問 わくわく定住奨励金の狙いと市民からの反応は。

▼答 中学生以下の子がいる世帯に親世帯の近くに住んでもらうことや、自治会への加入を奨励す

ることで、特に若年世代の転入や子育て、介護において家族や地域のささえ合いを促進しようとする狙いである。
家を建てられる方や土地を探している方から多くの問い合わせをいただいている。

公共施設の 耐震対策

▼問 市長は公共施設耐震化100%を目指しているが、現在の状況は。

▼答 学校施設は、児童生徒が一日の大半を過ごす場であると同時に、災害が起こった場合の一時避難場所にも指定されており、災害時には特に重要となってくることから、平成26年度末までにすべての学校の耐震補強を完了したい。

その他の公共施設の耐震補強対策については、学校施設の耐震補強の後、整備方法や時期などを検討していく。



築41年を経過した川島振興事務所

▼問 本庁舎や川島振興事務所は建て替えるのか。

▼答 市役所本庁舎の耐震対策を検討するための調査をしており、平成26年3月までに調査が終了する。

その調査結果を踏まえて、耐震補強改修をするのか、建て替えをするのかを決めたい。

また、川島振興事務所については、「相当な補強が必要」と耐震判定を受けている。

このため、現在地の周辺での建て替えを前提とした用地交渉や、財源の確保などの具体的な検討を開始した。

風疹ワクチン

予防接種助成の経緯は

全国的な流行・胎児への影響などで判断

▼問 風疹ワクチン予防接種費用を助成することにした理由は。

▽答 風疹が全国的に流行していること、胎児に対する先天性疾患につながるという特殊性、子育て世帯に与える不安などを総合的に考えて助成を決定した。

▼問 風疹ワクチン予防接種費用を無料にしては。

▽答 成人に対する予防接種は任意であり、全額自己負担を原則としているため、無料化することまでは考えていない。

▼問 高齢者を対象とした肺炎球菌ワクチン接種の助成内容は。

▽答 接種費用の半額の4千円を助成している。対象者は約2万3千人だが、予防効果が5年以上期待できるため、今年度は3割程度の6900人、事業費は2767万

5千円を見込んでいます。予防効果が非常に高いため、来年度以降も引き続き助成したい。

発達障がい児の療育支援

▼問 乳幼児健診時に発達障がいの疑いがあると診断された子の人数は。

▽答 平成24年度の乳幼児健診受診者数は、1歳6カ月児健診1253人、3歳児健診1275人であった。

その中で、社会性の発達が遅やかだと思われた子は、それぞれ389人、95人であった。

▼問 乳幼児健診で、発達が遅やかだと思われる子には、どのように対応しているか。

▽答 毎月2回開催する「ことばの相談」への参

加を勧めている。

「ことばの相談」では、保健師や療育担当の保育士、療育支援専門員が寄り添い、助言や見守りを行っている。

その中で、発達障がいの疑いがあると思われる子には、療育指導委員会の決定を受け、その子に合った療育サービスの利用計画を作成し、必要な療育につなげている。

▼問 発達障がいの疑いがある子への早期療育の内容は。

▽答 専門機関である福祉の里で、集団生活への適応や、言語機能などの訓練を行っている。



乳幼児健診（あさひ子ども館）

高機能消防指令センター

▼問 4月に消防指令システムを更新し、新しい消防指令センターの運用を開始したが、通報から指令までの平均時間は。

▽答 平均所要時間は、4月が68秒、5月が63秒であった。

▼問 119番通報から指令までの時間を短縮できると聞いたが、実際に運用を開始し、どのような課題が見つかったか。

▽答 現在では40秒を切る指令も着実に増え、最短で26秒を記録した。しかし、まだ取扱件数も少ないため、システムを十分に使いこなしているとはいえない。

今後、も日常の計画的な操作訓練と定期的なケース検討会議を持続的にを行い、操作技術の向上とシステム運用の改善に努め、指令所要時間40秒を目指したい。

▼問 消防職員を増員する考えは。

▽答 昨年度は7人の定年退職者に対し、10人採用をしている。

今年度も5人の定年退職者に対し、それを上回る採用を予定している。



更新された消防指令システム

▼問 災害情報スピーカを広く利用する考えは。

▽答 限定した運用にしないと、市民からの苦情につながりやすく、本来あるべき防災行政無線の運用に支障を来すことも考えられるため、運用は従来どおり市民の生命・身体・財産にかかわる事案など、緊急に周知が必要な場合に限定する。

夏期巡回ラジオ体操

8月9日(金) 市民公園から生中継



ラジオ体操をする子どもたち(雄飛ヶ丘公園)

▼問 市制施行50周年記念事業として、夏期巡回ラジオ体操が計画されているが、その概要は。

▽答 8月9日の朝6時から市民公園で夏期巡回ラジオ体操を開催する。

主会場の市民公園では、周辺の子ども会やシニアクラブをはじめ、約2千人の市民の参加を予定している。

また、市民総参加の大会となるよう市内の各子ども会や各自治会にも呼

び掛け、市内全域でラジオ体操を実施したい。

▼問 小中学校でのラジオ体操の実施状況は。

▽答 ラジオ体操は、運動前に行うと心肺機能や柔軟性を高めるなどの効果があり、多くの学校でプールや運動会などの準備体操として行っている。子どもたちにとって効果的な体操になるように正しい体操の仕方を指導している。

小中学校のICT化教育

▼問 小中学校でのICT(情報通信技術)を使った教育の取り組みは。

▽答 情報化が急速に進む中、情報を適切に選択判断する力、コンピュータなどのICT機器を有効に活用する力が求め

られている。

今年度は、モデル校2校に電子黒板やタブレットパソコン、デジタル教材などを導入し、授業内容の充実や子どもたちの学習意欲、習熟度、機器の扱いやすさなど、さまざまな角度から効果を検証していく。

▼問 小学校の英語教育の現状は。

▽答 4人の外国人英語指導助手を採用し、すべての小学校で児童がコミュニケーション能力の下の身に付けられるよう指導している。

▼問 中学校の英語の授業を英語のみで行うような取り組みが必要と考えるが、市の考えは。

▽答 生徒が英語を使って自分の考えを伝え合う活動を授業に取り入れるよう指導していくが、過度な負担によって英語嫌いを増やしてしまわないよう、配慮することも大切であると考えている。

空き地などを「学童緊急避難場所」として定めているが、その周知方法と場所の見直しの考えは。

▽答 緊急避難場所を記載した「通学路ふれあい安全マップ」を小学校区ごとに作成し、児童生徒がいる家庭や通学路見守り隊に配布している。

緊急避難場所として適切かどうか、学校や家庭、地域が連携して、必要に応じて見直していく。

ふれあいバスと交通弱者対策

▼問 ふれあいバスの路線を見直す考えは。

▽答 ふれあいバスの運行については、常に市民要望や利用状況を踏まえ、バス停の新設や路線経路の変更を行っている。

平成27年度のリニューアル運行開始を目指し、「鉄道や既存バス路線などの公共交通との連携を軸に、各地域を主要な駅や施設と結ぶ」、「時間を



ふれあいバス

短縮するため、本数を増やす」といった2つの観点から見直しを検討している。

▼問 交通弱者対策として、乗り合いタクシーなどを導入する考えは。

▽答 市内の住宅団地を含む高齢化に対する交通弱者対策として、まず、ふれあいバス路線の見直しを行う。

全体の公共交通体系の中で、補完が困難な地域では、乗り合いタクシーなどの導入や民間事業者との連携を図るなど、さまざまな方面から対策を検討していく。

街路樹などの管理方法は

透かし剪定と芯止めの対応へ転換



街路樹が生い茂るいちょう通り

▼問 街路樹の落ち葉の処理や剪定をどのように行うのか。

▼答 以前は、落葉後に街路樹の剪定を行っていたが、今年から落葉前に剪定することにより近隣住民の負担軽減を図る。

また、見通しの良い事故のない安全な街並みを形成するために、必要に応

じ透かし剪定や芯止めを行い、街路樹と共存する管理方法へ転換していく。

▼問 公園の大きくなりすぎた危険な樹木への対応は。

▼答 公園の樹木については、隣接地に出ている枝や照明灯にかかる枝、通行の障害になっている枝などの剪定のほか、風

通しを良くする透かし剪定を行い、倒木の危険防止に努めている。

大きく成長した樹木などは、

緑の博士であるグリーンドクターの指導・助言を受けながら適

正な剪定を行い、

今後も見通しが

良い安全安心な公園を目指していく。

交通渋滞と安全対策

▼問 木曽川堤防道路の渋滞緩和への対応は。

▼答 各務原大橋完成後1カ月ほどは、朝の時間帯に、堤防道路とアンダーパスとの交差点を超え

るほどの渋滞があったが、現在は落ち着いている。今後も、信号サイクルの見直しや右折信号の設置などを公安委員会と協議し、交通渋滞が起

きにくいよう対応していく。

▼問 那加中学校南西の前野踏切を歩行者が安全に渡ることができるよう対策は。

▼答 前野踏切を拡幅するのには困難だが、踏切前後の東側路側帯にグリーンラインのカラー舗装を行

い、視覚的な安全対策を行いたい。

▼問 各務原大橋の完成で、交通量が増加した稲羽中学校北側的那加小網線を安全に横断できるよ

うな対策は。

▼答 稲羽中学校への横断が困難なため、公安委員会へ横断歩道と信号機の設置要望をしてきた。

横断歩道は設置されたが、信号機はないため、設置場所の変更も考えながら、できるだけ早く信号機をつけるよう公安委員会に要望していく。



稲羽中学校付近で横断待ちをする生徒

▼問 日野岩地大野線の踏切拡幅工事は、いつ行われる予定か。

▼答 踏切拡幅工事については、JR東海・名鉄と協議中で、踏切拡幅の設計を今年度予定しており、平成28年度末に完成するよう要望している。

簡単なごみ減量法

▼問 各家庭で生ごみの水切りを行えば、ごみ減量につながるのでは。

▼答 生ごみの水切りは、簡単に取り組めるごみ減量の有効な手段の一つと考えている。

また、悪臭を減らしたり、燃焼効率の向上や収集作業の効率化にもつながるので、広報紙などで周知していく。

▼問 ごみ袋の大きさと厚みなどが変更されると聞いているが、どのように変更されるのか。

▼答 平袋タイプ大は、横を3cm大きくし、厚みを増すことでポリ容器に収まる形にする。

レジ袋タイプ大は、縦4cm、横3cm大きくする。

販売価格は製造業者と調整中だが、1袋当たり1円から3円程度の値上げになる見込みで、11月頃の販売を目指している。



こんな街がいいな！

～わたしたちの夢、願い～

地域の力でふるさと創生



蘇原清住町
田中 教悟さん

住民有志による生涯学習講座「清住町ふるさとカレッジ」を開講して3年目を迎えます。

公民館で毎月1回、受講生参加型の内容を工夫し、歌タイムや休憩時のお茶タイムの交流などが好評です。

今年度は、小学生との交流やシニアクラブと共同の花壇づくりにも着手しました。

また差し迫って重要な地域課題である防災面の研修も計画しています。

今後、さらに広い世代間の絆を深める「ふるさと創生」を目指して、関係機関と連携を図りながら努力してまいります。

歩行者優先の街



松が丘
伊藤 玲さん

当市が「歩行者優先の街」であることは、当たり前のことですが、主な移動手段が「徒歩」である私にとっては、首をひねりたくなる場面もあります。

先日、よく利用する狭い道路の側溝に蓋がされて以前より道幅が広がりました。

これにより、安全に歩けるようになりましたが、出来上がった歩道は、まだ広いとは言えません。

歩行者が車道側にはみ出して歩かなければならない所も、まだ残っています。

歩行者が、さらに安全に歩ける「歩行者優先の街」を実現したいものです。

合唱を通じた街づくり



川島緑町
野田 洋志さん

川島中学校は全校を挙げて合唱に取り組んでいます。

平成24年度は、サラマンカホールで、素晴らしい歌声を聞かせてくれました。

生徒会を中心に川島地区の住民千人による大合唱を企画しているところです。

合唱を通して地域の絆を深めたい。

中学生が持っているパワーを借りて、ぜひ成功させたい。

合唱で知り合ったご縁を大切に街づくりに発展させていきたい。

一体感のある魅力的な街、川島を目指しています。

市議会を見にきませんか？

平成25年9月定例会の日程（予定）

8月30日	本会議 開会
9月12日～13日	本会議（質疑・一般質問）
9月18日～20日、24日	常任委員会
9月27日	本会議 閉会

※日程は議事の都合により変更になる場合があります。

※ウェブサイトで本会議の生中継や過去の録画映像をご覧いただくことができます。

▼時間前に議席に着席するも執行部が既に全員揃っていることに最敬礼。
▼初質問の議員、初答弁の市長を見るため傍聴席は満席に。議場全体が緊張感に包まれた。
▼満席の傍聴席に足がすくむも、先輩議員の檄（げき）で我に返る。
▼新人議員、新市長の熱い声が議場内に響く。
▼すべての新人議員が一般質問に初登壇。たどたどしくも堂々と初質問を成し遂げ一安心…

議会素描

▼初質問の新人議員に、初答弁の新部長。共に緊張で固まった。

▼初登壇。緊張のあまり声を張り上げすぎて、マイクのボリュームを絞られた。

▼新設された総合計画特別委員会では、市民の声を聴き、議会からも積極的に声を上げていきたい。

市議会だより編集委員会
委員長 池戸一成
副委員長 瀬川利生
委員 五十川玲子
津田忠孝
水野盛俊
坂澤博光



環境保護のため植物インキを使用しています。